

他校訪問実習を実施して

～いわき市事務研の新たな試み～

福島県いわき市公立学校教育事務研究協議会 鈴木 みのり

1 はじめに

- (1) きっかけは藤原先生
「ライフコースアプローチに基づく学校事務職員の職務と専門的力量に関する実態調査研究」の著者、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター助教授・藤原文雄先生の講話より。
『学校事務職員は一日をどのように過ごしているのか？一日中、行動を共にしてみました。』
- (2) いわき市公立学校教育事務研究協議会での試み
個人レベルではなく、事務研として「他校訪問」を実施しよう。校長会を通して、服務は出張で。

2 「他校訪問実習報告 ～突撃！となりの事務室～」

- (1) 協力校視察
視察者は主事3人、協力者は中堅主査4人。
- (2) 報告書の作成

3 目からウロコ

- (1) いわき市小中学校事務研修会での発表
若い視察者3人による、若い人たち対象の分科会。
- (2) 個人の「知」の共有

4 もっと続けよう、もっと広めよう

- (1) 訪問者の感想、参加者の意見
- (2) そして、これから
もっといろいろな学校で、もっといろいろな事務職員のもとへ行ってみたい。それも職務として。

「新しい学校事務を求めて」～学校経営に参画する事務職員として～

他校訪問を実施して～いわき市事務研の新たな試み～

福島県を代表しまして、いわき市公立学校教育事務研究協議会の実践を発表します。以後、いわき市事務研という略称を使わせていただきます。私は、いわき市立泉北小学校・主査・鈴木みのりです。よろしくお願いいたします。時間に限りがありますので、原稿を読ませていただきます。

私の発表テーマは「他校訪問を実施して～いわき市事務研の新たな試み～」というものです。本分科会のテーマになっています「学校経営に参画する事務職員として」からは、かけ離れている内容かもしれませんが、私たちの取り組みについて聞いていただければと思います。

いわき市事務研は、小学校74校、中学校44校、計118校の学校で構成され、県費負担事務職員96人と事務職員未配置校の教頭先生、養護教諭で構成されている組織です。特徴は、事務研の会長、および副会長のひとりが校長先生ということです。市内9つのブロックに分かれ、それぞれ方部事務研として活動しています。年一回ずつの研究会、研修会では、方部の研究発表や分科会を実施しています。さらに、有志による「情報共有化委員会」と「パソコン活用委員会」も組織されています。方部事務研から市事務研、そして県事務研という縦のつながり、情報共有化委員会・パソコン活用委員会から市事務研という横のつながりは、私を含め県の専門委員会に所属している3人が情報共有化委員会のメンバーということで、うまく機能していると感じます。

御存知の方も多と思います、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター助教授・藤原文雄先生。福島県には、平成16、17年度の福島大学現職教職員研修講座、平成17年度の県事務研研究大会と3度来ていただいています。初めて聞いた講話は「ライフコースアプローチに基づく学校事務職員の職務と専門的力量に関する実態調査研究」の成果報告でした。講座参加者は分厚い報告書をお土産としていただきました。静岡県の学校事務職員の实態に、思わず頷きながら話に聞き入った記憶があります。その中で、「学校事務職員は忙しい、忙しいというが、何がどのように大変なのか？一日中、中学校の事務室で行動を共にしてみました。」という話がありました。忙しいというよりは慌しいという言葉が当てはまる一日であり、でもそれだけではまだまだ観察が不十分なので自由記述の日誌を書いてもらったこと、「学校事務職員の力量形成のための有効な行政施策について質問した結果、他の学校事務職員の仕事を見る機会を増やしてほしい」という回答が一番多いということ・・・こういった話を聞いて、もっと藤原先生のお話を聞きたい、もっとたくさんの人に聞いてもらいたいと考え、県事務研の研修委員会の企画により平成17年度の研究大会の全体研修会の講師としてお招きしたわけです。

大学の講座では多くても200人程度の参加者ですが、研究大会は500～600人の参加者がいます。私自身研修委員として運営に携わったのですが、1時間半という短い時間でしたが、研究大会で藤原先生の話をもっと多くの人たちに聞いてもらったことは、私たちいわき市事務研にもプラスの効果をもたらしました。

「他の学校の事務室に行って仕事ぶりをみるのって、おもしろそうだね。私たちもやってみる？」昨年12月の情報共有化委員会の集まりの中でその話題は出ました。違うのは、事務職員を観察するのではなく、その事務職員から知識を盗むこと。私たちは「個人の知の共有」という考えですすめたいと考えました。

2月に開催される市の研修会は午前中が分科会です。市の研究部に提案し、今回はひとつの分科会をいただき、実践報告として情報共有化委員会と共に運営していくことにしました。初めてということ、また時間の制限もあり、他校の事務室の視察者は研究部から主事2人、委員会から主事1人の計3人、訪問される側は研究部長、委員会から3人の主査の4校としました。

あとは日程の調整をし、事務研会長である校長先生から各校へ連絡していただき、実施することになりました。ここが、いわき市事務研の強みでしょうか。初めに説明しましたように、団体の長が校長先生ということで、連絡調整がスムーズにいき、堂々と他校訪問実習を実施する運びとなりました。

訪問は、2日に分けて4校、研究部長を含めた4人で全て訪問しました。分科会での発表、報告書の作成・・・というのが頭にあり、訪問を前に視察者は「視察する際の視点を決めること」を考えました。(資料の12ページをご覧ください)しかし、1校目を訪問した際、実際その視点で見ようとするとはが見えなくなってしまうと感じ、自由に、感じるままに見ることにしたようです。興味のあるところを片っ端からデジカメで撮影していく...4校目を訪問するころには莫大な量の写真をとっていたということです。

4校のうちの1校が私の学校でした。荷物の多い事務室なのであまり見せられないなあと思っていましたが、視察者が若いということもあり、見てもらい始めると次から次と見せたくなくなってきます。仕事上のノウハウを見せてもおもしろくも何ともありませんので、自分なりのアイディアを見てもらいました。玄関や印刷室のイラストを使ったいろいろな表示、不要になった傘立てを利用して用務員さんが作った棚やゴミ箱、採用時から発行している事務通信、事務運営計画等のプリント類など、手当たり次第見せてしまったような気がします。

事務室訪問から分科会での発表、そしてまとめまでの視察者の仕事というか苦労は、資料にあるようになっています。(資料の13ページ、14ページをご覧ください。)

このがんばりの甲斐があって、分科会での発表は素晴らしいものになりました。それぞれの担当学校について資料を作成し発表に臨みました。参加対象者は主事を中心に経験年数が浅い事務職員とし、資料に載せた写真だけでなくプレゼン形式で披露しました。本日配付した資料の1ページから11ページが、研修会当日、分科会で配付した資料です。後でご覧になっていただければと思います。

研究部や情報共有化委員会のメンバーから訪問校を選んだのですが、偶然にも各学校の事務室・職員室・印刷室の配置が全て違うものでした。建物の構造を変えることはできないので、与えられた空間をいかに生かしていくか、なされている工夫もそれぞれで、興味深いものでした。また、それぞれの人間の特徴というか特色というか、カラーも違かったようです。

参加者からもたくさんの好意的な感想が出され、今まで聞けなかったことやこれから実践してみたい意見などもありました。当日の分科会参加者の感想や質問等は資料の15ページから17ページに掲載してあります。

その後、数日間個人的に質問の電話があり、初めてにしては成功した実践だったと思います。

この訪問によって、自分がやってきたことが間違っていなかったと思うこともあったでしょうし、先輩たちのたくさんのアイディアを目の前にして、刺激を受け、すぐにでも取り入れたいと思ったこともあったでしょう。資料の18ページ~20ページは、今年度さっそく取り入れたことについて視察者にレポートしてもらったものです。

さらに、もっと手軽に他校訪問ができるように、校長会の協力をいただきながら訪問のためのマニュアルも作成中です。「お互いの都合が合えばいつでも訪問できる、もちろん出張で。」・・・どんどん浸透させ、世代を超えた交流ができるようになればと思っています。

「学校経営に参画しよう」・・・さまざまな場面で聞かれる声ですが、いざ実行!となるととても難

しいことです。20年間事務職員をしている私でさえやっとなことなのに、若い人たちには本当に大変なことだと思います。知識も経験も少ない中でどうやって参画していくか・・・やはり積極的な情報収集が一番ではないでしょうか。それも文字やネットなどの媒体からではなく、ヒト・同じ事務職員の生の実践から、アイデアやテクニックを吸収して自分の実践に生かしていく、これが一番効果的だと思います。経験年数の浅い事務職員が、少しでも学校経営に参画できるようになるために、市事務研としてその場所を提供していけたら素晴らしいことではないでしょうか。学校に一人しかいない事務職員でも市内では100人近くいます。100人近い仲間がいます。事務研の縦横のつながりをフルに活用して、事務職員のレベルアップをはかることも、私たちの役目だと思います。

今回の発表は「学校経営に参画する事務職員として」ではなく「学校経営に参画する事務職員になるための入門講座」といった方が適当かもしれません。初めの一步を踏み出すきっかけ作りの実践発表でした。

最後に、私自身の学校経営への参画についてお話ししたいと思います。私の勤務するいわき市立泉北小学校は、平成8年度に新設された市内では新しい学校です。全校児童830名・26学級、職員数42名で市内一の大規模校です。

現在の学校には平成14年度から勤務して、今年で5年目になります。とりあえずできることから実行していきました。

まずは、学校予算委員会の設置です。平成15年度から開催しています。教材備品の購入検討と次年度の予算要望程度の内容ですが、開催することに意義があるとの考えで実施しています。教材備品の検討は、各教科から出された要望をもとに主任同士で話し合いをします。自分の教科の要望を通すのにみんな必死で訴えます。年々、白熱化してきて予定時間を軽くオーバーしてしまいます。

そして、平成16年度からは『事務運営計画』を「各種全体計画」に入れました。会計事務を中心にした内容で、まだまだ未完成ですが、やはりこれも、作成し、職員に啓蒙することが大切との考えで継続しています。これに併せて、新年度最初の職員会議に「校内事務関係諸連絡について」という私の時間が設定されています。事務運営計画を簡単に説明し、別プリントで印刷関係等校内事務に関するものを用意し、説明しています。転入職員だけでなく今までいた職員にも再確認してもらえらるのありがたい時間です。年度末にも転出職員に対して、異動のための事務打ち合わせの時間が設定されています。

昨年度は、施設に関する子どもアンケートを5～6年生を対象に実施してみました。新しい学校なので、意見はあまり出てこないかなと思っていたのですが、「清掃用具入れの扉のキャッチ部分が壊れている」といったような、毎月の教職員の安全点検には上がってこない意見が多数ありました。また、「ゴミが落ちていても拾わない人がいる」というようなことを書いてくれた児童もいました。子どもの観察力の鋭さに驚いたものです。

今年度からはやっとな企画委員会に入れてもらうことができました。予算を伴う行事の検討には、事務職員は必要だと訴え続けた結果です。今学期末からは教育課程検討委員会にも参加させてもらうことになっています。

このようなことが、「私だからOK」ではなく、後任者の誰もが、それこそ経験年数の浅い主事であろうと、校内で同じように位置づけられ、学校経営に参画していけるように、しっかりした道をつけるのが、今の私の役目かもしれません。

また、特別支援を要する児童とも関わっています。たまたまこの児童が私に一番なついていたというのがきっかけです。校舎中追いかけたり、各教室からのSOSに仕事を中断し駆けつけたり、一日の大半をこの児童のために過ごすこともあります。しかし将来この子の人生に、私の存在が何らかの

影響を与えるかもしれないことを考えれば苦にはなりません。

一人でも多くの子どもたちの名前や顔を覚え、積極的に声をかけ中に入っていき、保護者とも積極的に会話し連携を密にする、誰もが気軽に入ってもらえるようにアットホームな事務室の雰囲気を中心に掛ける、などなど何事においても自分から行動を起こしていかなければ変わることはありません。確かに大変だとは思いますが、自分で選んだ道ですから、やりがいがあります。朝の「おはよう」から夕方の「さようなら」までいつも明るく笑って、子どもたちの日々の成長を見守っていけたら素敵なことではないでしょうか。

以上で、発表を終わります。